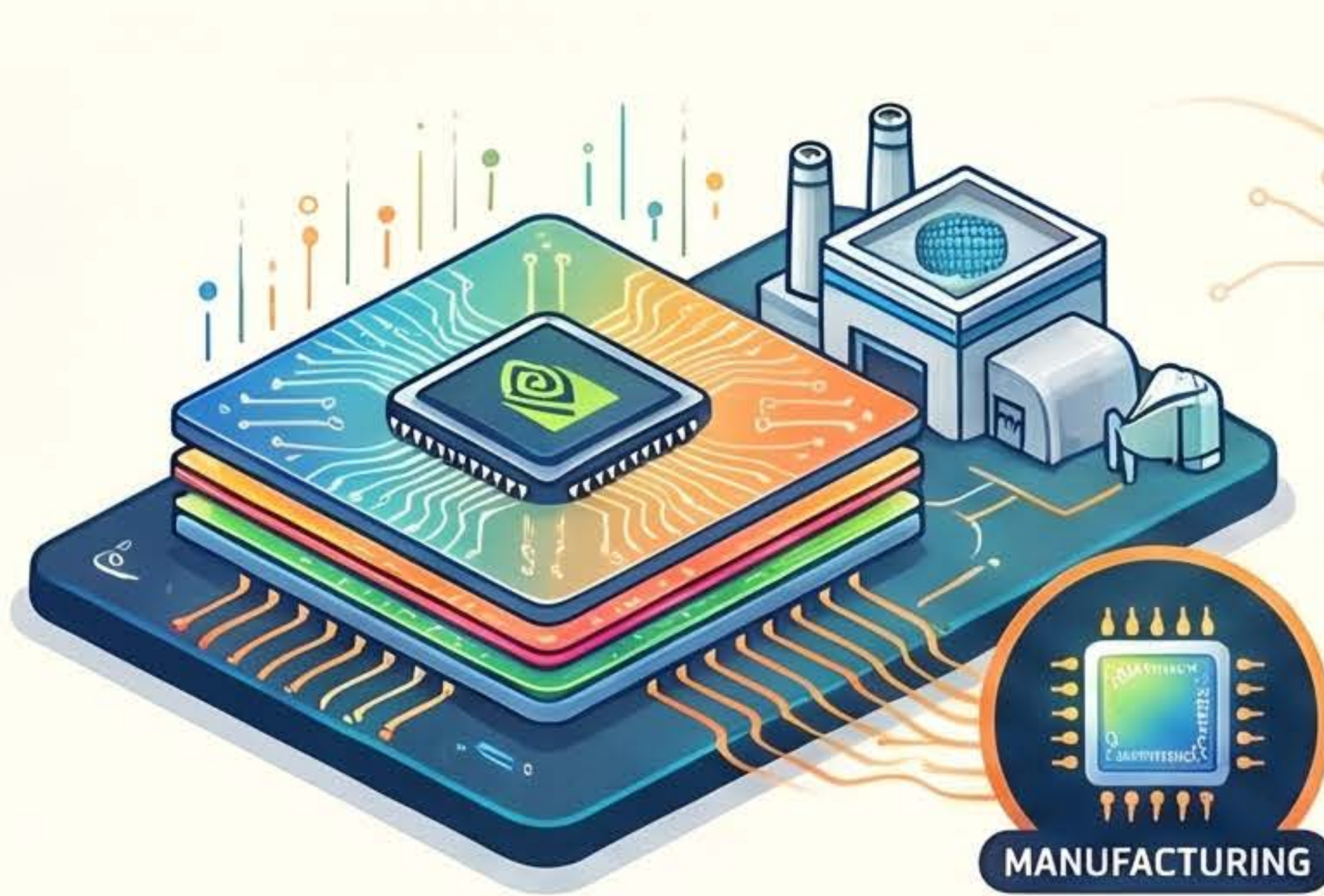


NVIDIAのアジア地経学戦略：日本が「フィジカルAI」で勝つための道筋



台湾：AI革命の「震源地」

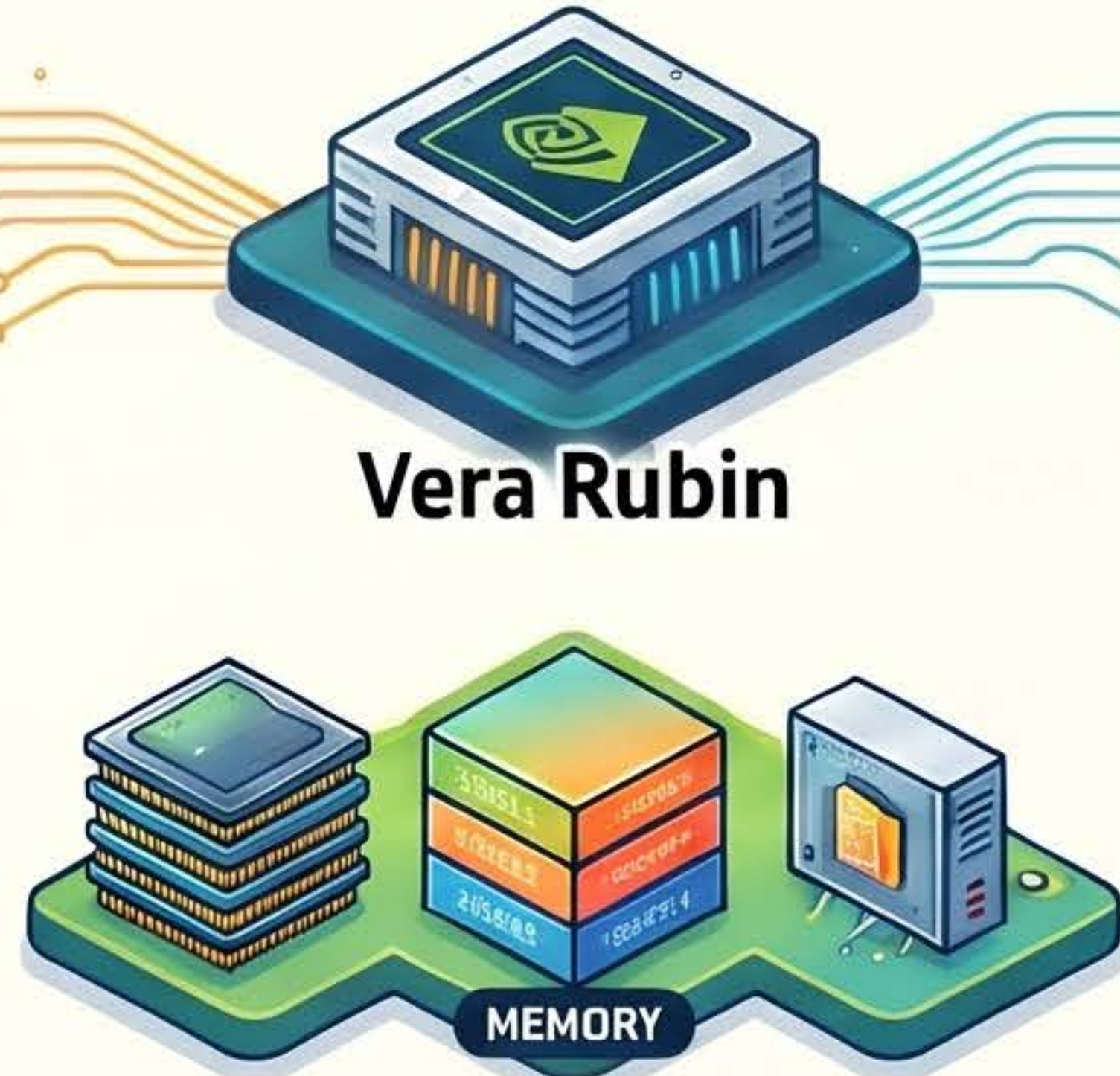
TSMCの先端製造と新拠点「Constellation」を通じ、ハード・ソフトが融合する製造インフラを担う。

日本を牽引する2大メガプロジェクト



国家級インフラ「Noetra」の始動

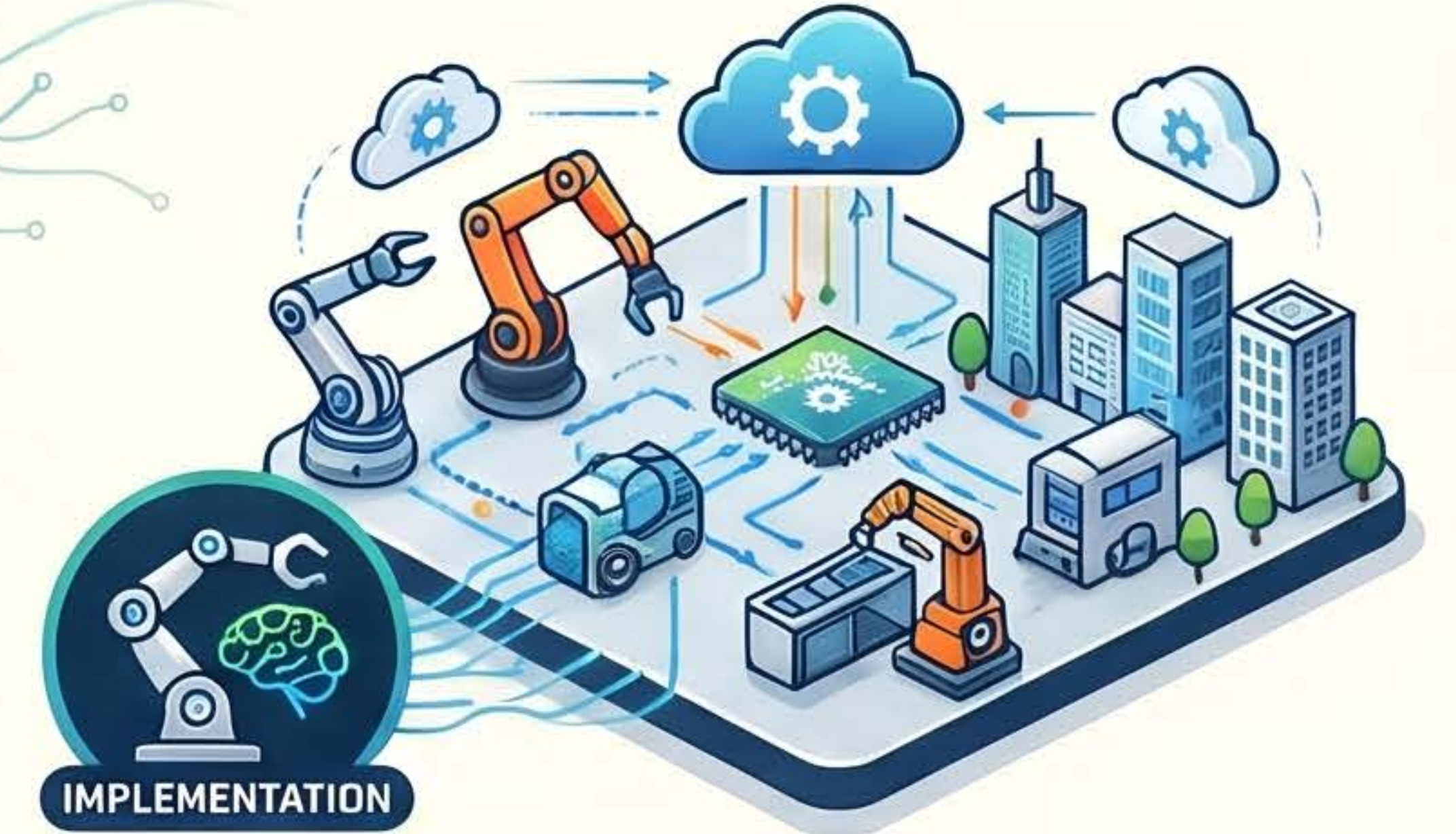
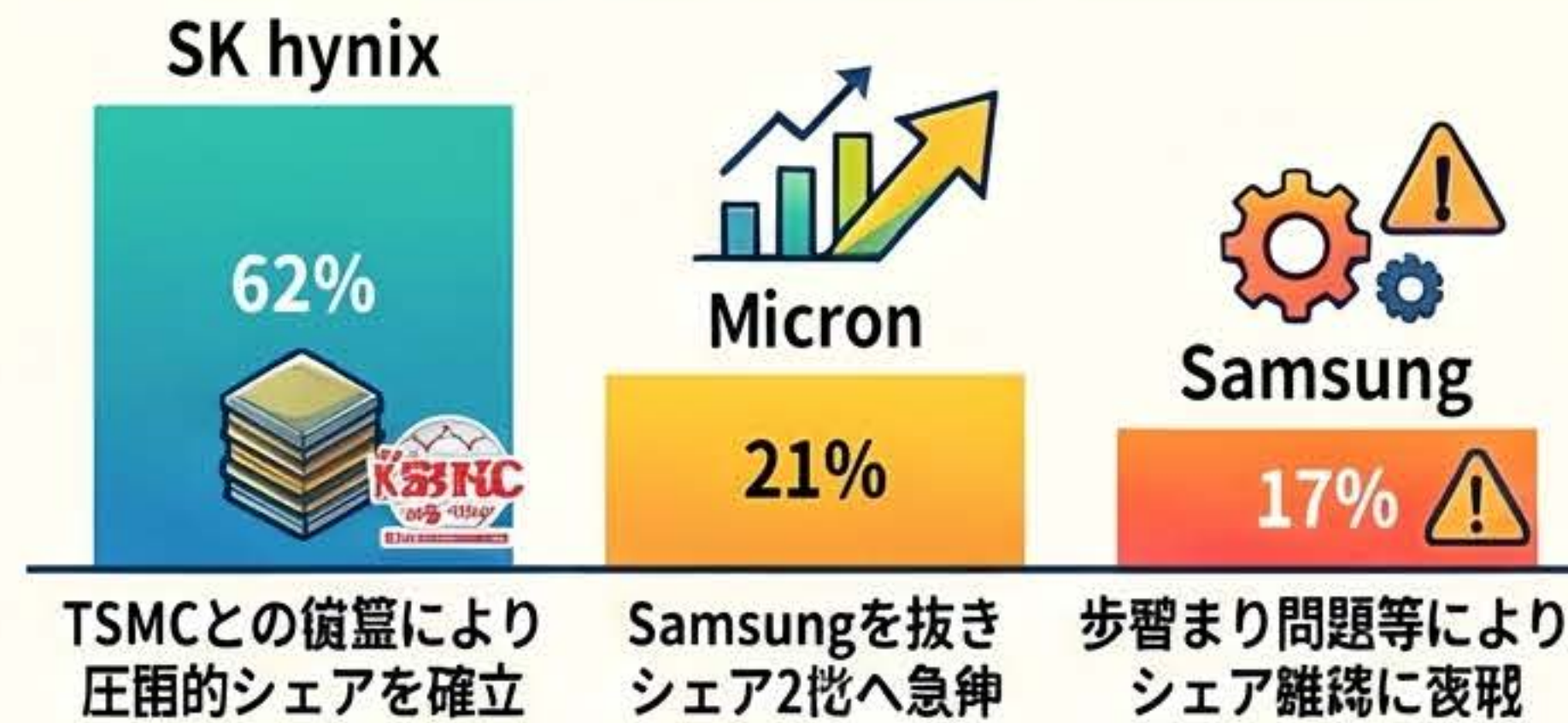
総産省支援の下、約2.7万基のRubin GPUを導入し、1兆パラメータ規模の国産AI基盤を構築する。



韓国：次世代メモリ（HBM4）の供給網

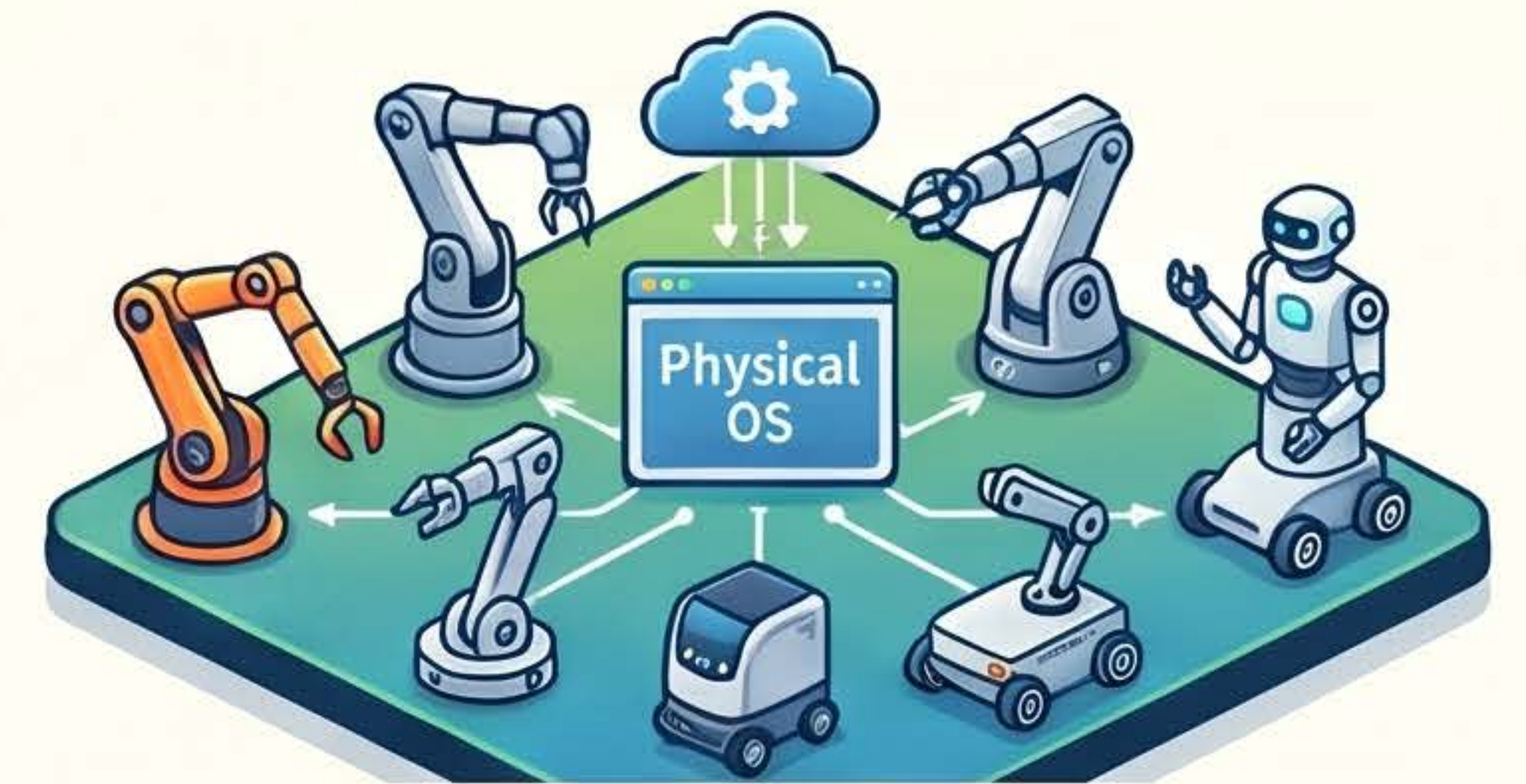
SK hynixを筆頭に、AI演算のボトルネックを解消する広領域メモリの安定供給とgatekeeperの復讐を果たす。

HBM（高帯域幅メモリ）市場における2026年第2四半期の勢力図



日本：フィジカルAIの「実装・実証場」

高度なメカトロニクスと現場データを活用し、自律ロボットや工場自動化の社会実装を主導する。



富士通・ロボティクス連合による標準化

ロボット大手3社と「Physical OS」を共通化し、現場ごとの個別最適化という日本の構造的課題を克服する。

30%
超

2040年に世界シェア30%超を目指す

1,330億ドル規模と予測されるAIロボティクス市場において、日本の「勝ち筋」を確立する。